



“地域のことは地域で考えよう”

2020年9月29日

おきぎん県内景況・速報 2020年8月

◎県内景況は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大により、復調の動きに弱さがみられ、依然として厳しい状況が続いている

■個人消費

スーパー売上高は、全店ベースは前年同月を上回る。既存店ベースは下回る。

百貨店売上高は前年同月を下回る。

家電卸出荷額は前年同月を下回り、新車販売台数は下回る。

■建設関連

公共工事請負金額は前年同月を上回る。

生コン、セメントはともに前年同月を下回る。

■観光関連

入域観光客数は前年同月を下回り、観光施設入場者数も下回る。

ホテル稼働率は、シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで下回る。

ホテル客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入(推計値)も下回る。

■企業倒産

件数、負債総額ともに前年同月を上回る。

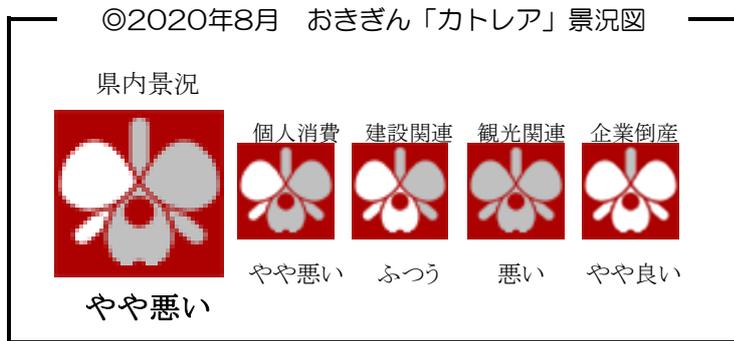
現場主義とお客様からの信頼

※お気づきの点、不明な点などがございましたら、下記までご連絡ください。

(株)おきぎん経済研究所

TEL:098-869-8711 FAX:098-869-2200

おきぎん県内景況・速報(2020年8月分)



◎概況：県内景況は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大により、復調の動きに弱さがみられ、依然として厳しい状況が続いている

8月の県内景況は、個人消費関連では、スーパー売上高は、全店ベースは前年同月を上回り、既存店ベースは下回りました。百貨店売上高は、前年同月を下回りました。耐久消費財である家電卸出荷額は、前年同月を下回りました。新車販売台数は前年同月を下回りました。

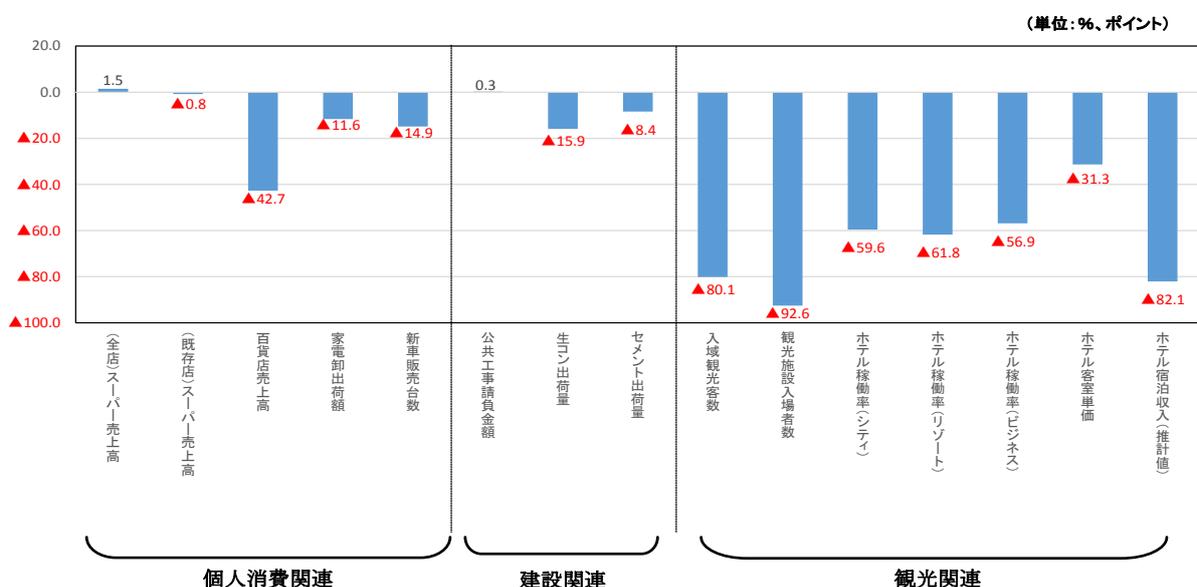
建設関連では、公共工事請負金額は2ヵ月ぶりに前年同月を上回りました。建設資材である生コン、セメントはともに前年同月を下回りました。

観光関連では、入域観光客数は8ヵ月連続で前年同月を下回り、観光施設入場者数も前年同月を下回りました。ホテル稼働率はシティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を下回りました。ホテル客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入(推計値)も下回りました。

このような状況に鑑みて、建設関連は弱含みがみられる中、個人消費は持ち直しの動きに弱さがみられ、観光関連は厳しい状況にあることなどから、「県内景況は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大により、復調の動きに弱さがみられ、依然として厳しい状況が続いている」と景気判断を据え置きましました。

(2020年4月の下方修正から5ヵ月連続で判断維持)

主要景気指標前年同月比



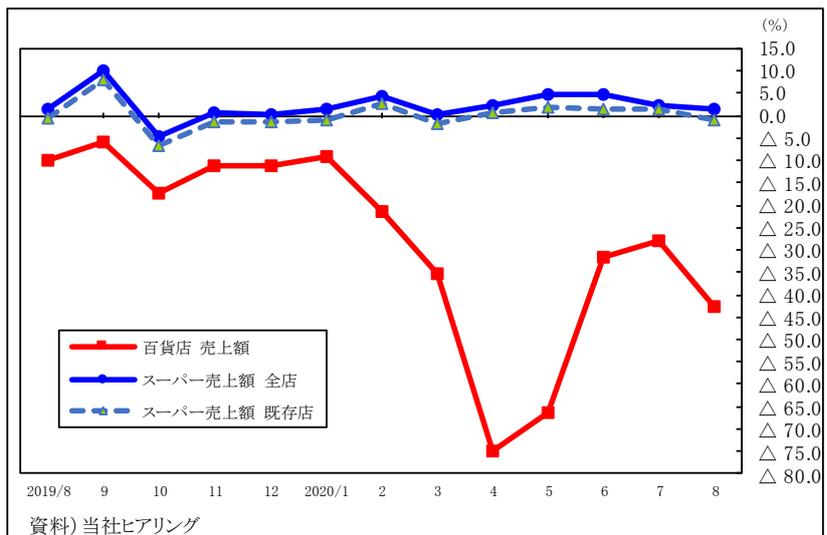


■個人消費： (やや悪い)

① スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は、全店ベースは前年同月を上回り、既存店ベースは下回る。百貨店売上高は前年同月を下回る。

単位：％

	スーパー売上額		百貨店 売上額
	全店	既存店	
2019/8	1.3	△ 0.5	△ 10.0
9	10.2	8.1	△ 5.9
10	△ 4.8	△ 6.6	△ 17.2
11	0.5	△ 1.2	△ 11.3
12	0.3	△ 1.5	△ 11.2
2020/1	1.4	△ 0.8	△ 9.3
2	4.5	2.8	△ 21.3
3	0.4	△ 2.0	△ 35.2
4	2.3	0.7	△ 75.1
5	4.6	1.9	△ 66.2
6	4.9	1.6	△ 31.7
7	2.2	1.3	△ 27.9
8	1.5	△ 0.8	△ 42.7



注) 前年同月比

8月の個人消費関連では、スーパー売上高「全店ベース(前年同月比1.5%増)」は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大による緊急事態宣言の発出を受け、外出自粛および不要不急の買い物を控える動きが見られたことなどから、「衣料品(35.4%減)」、「家庭用品(2.4%減)」となりました。一方、巣ごもり需要の増加により「食料品(同5.2%増)」が伸び、全体としては10ヵ月連続で前年同月を上回りました。

「既存店ベース(同0.8%減)」は、緊急事態宣言の発出を受け、大型店舗を中心に来店客数が減少し、5ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。品目別では、ウエイトの高い「食料品(同3.2%増)」は、巣ごもり需要の増加などから、全般的に伸び、前年同月を上回りました。一方、「衣料品(同37.8%減)」は、外出自粛および不要不急の買い物を控える動きが見られたことなどから、前年同月を下回りました。家電、ドラッグを含む「家庭用品(同5.8%減)」は、家電が定額給付金による需要が落ち着いたことと、前年に消費税増税の駆け込み需要により伸びた反動により、前年同月を下回りました。

百貨店売上高は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大による緊急事態宣言の発出を受け、外出自粛および不要不急の買い物を控える動きが見られたことなどから、来店客数が減少し、15ヵ月連続で前年同月を下回りました(同42.7%減)。内訳をみると、ウエイトの高い「衣料品(同52.3%減)」は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大により客足が伸びず、前年同月を下回りました。「食料品(同21.6%減)」は、お中元ECサイトの売上げが伸びたものの、来店客数の減少により前年同月を下回りました。靴、化粧品等の「雑貨(同55.0%減)」は、インバウンド需要が大幅に減少し、前年同月を下回りました。

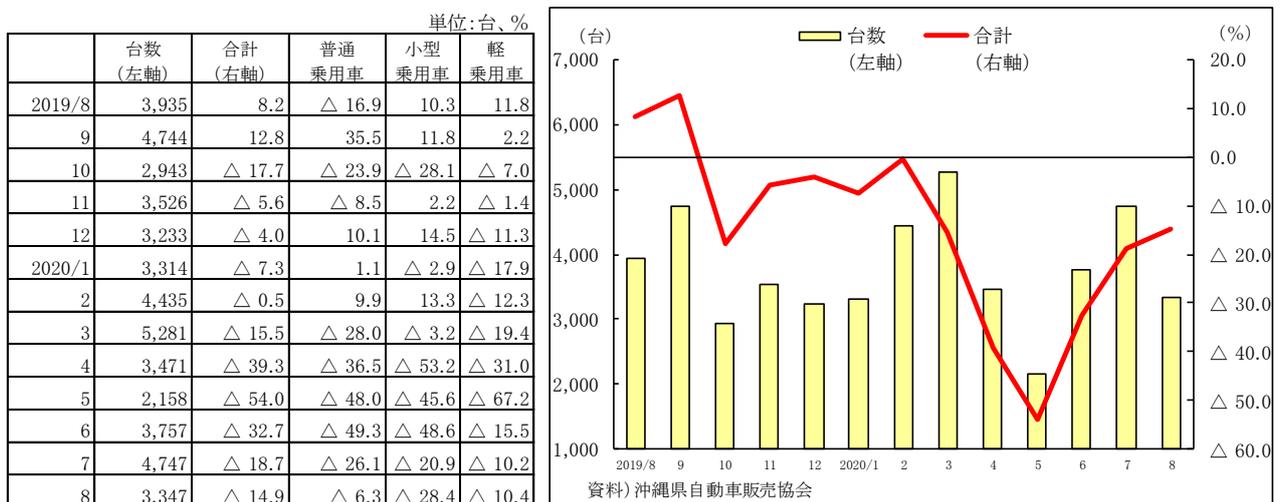
② 家電卸出荷額…家電卸出荷額は3ヵ月ぶりに前年同月を下回る。



注) 前年同月比

家電卸出荷額は、3ヵ月ぶりに前年同月を下回りました(同 11.6%減)。品目別では、「冷蔵庫(同 11.6%増)」は、大型商品、新商品の売れ行きが好調で、前年同月を上回りました。一方、「テレビ(同 9.0%減)」、「VTR(同 39.8%減)」、「洗濯機(同 21.5%減)」、「エアコン(同 12.8%減)」は、特別定額給付金の支給による買い替え需要増加が一段落したほか、消費税増税に伴う駆け込み需要の反動減などから、前年同月を下回りました。

③ 新車販売台数…新車販売台数は、11ヵ月連続で前年同月を下回る。



注) 前年同月比

注) 普通乗用車及び小型乗用車は登録車、軽乗用車は届出車の数値を表示。

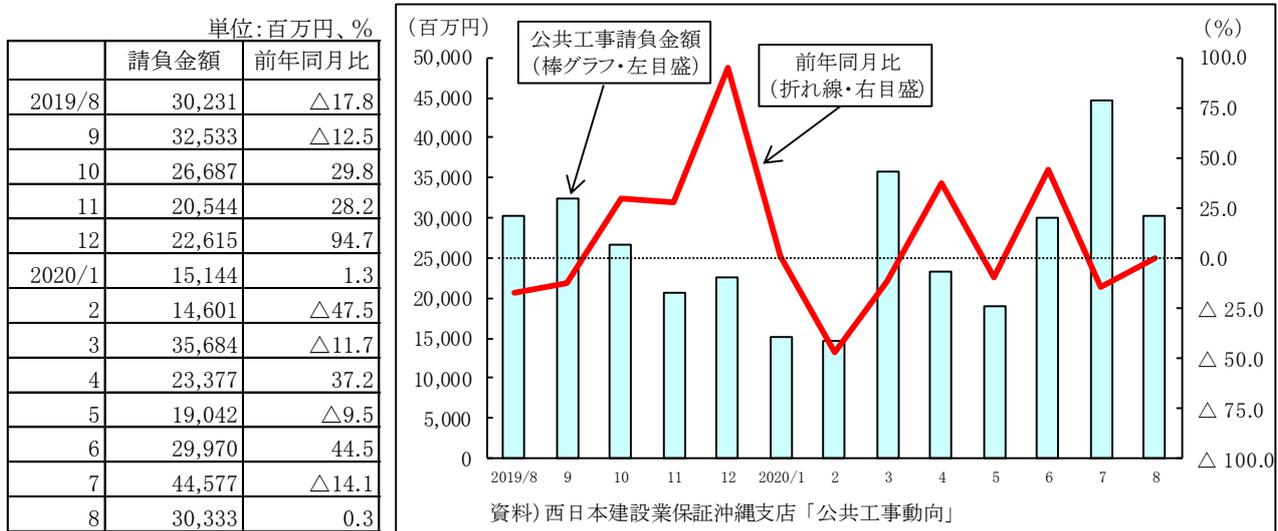
新車販売台数は、全体で3,347台(同 14.9%減)となり、11ヵ月連続で前年同月を下回りました。車種別では、「普通乗用車(同 6.3%減)」、「軽乗用車(同 10.4%減)」は、自家用車需要、レンタカー需要ともに減少し、前年同月を下回りました。「小型乗用車(同 28.4%減)」は、自家用車需要は増加したものの、レンタカー需要が減少し、前年同月を下回りました。

※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。

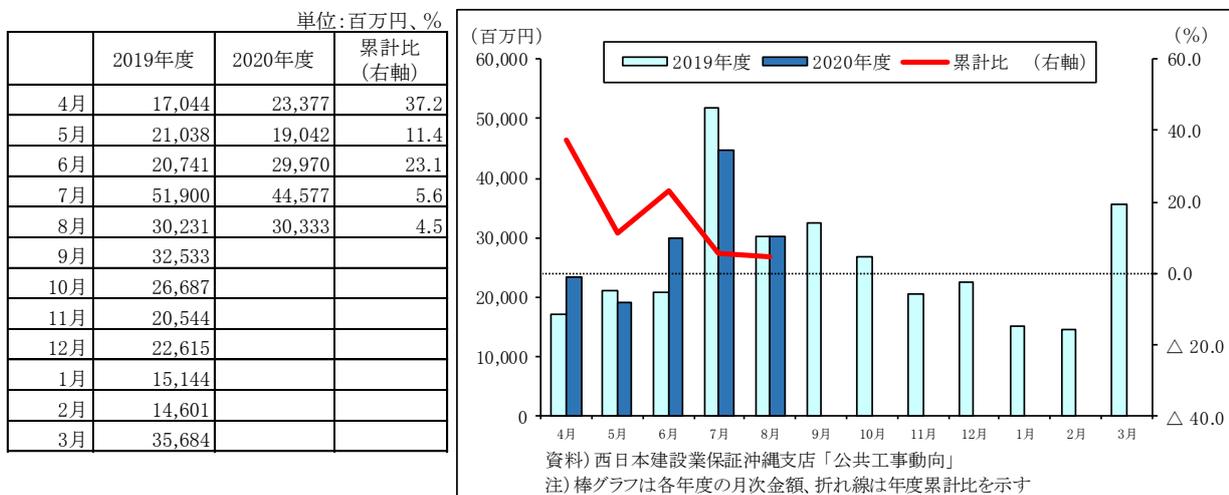


■建設関連： (ふつう)

①公共工事・・・公共工事請負金額は前年同月を上回る。



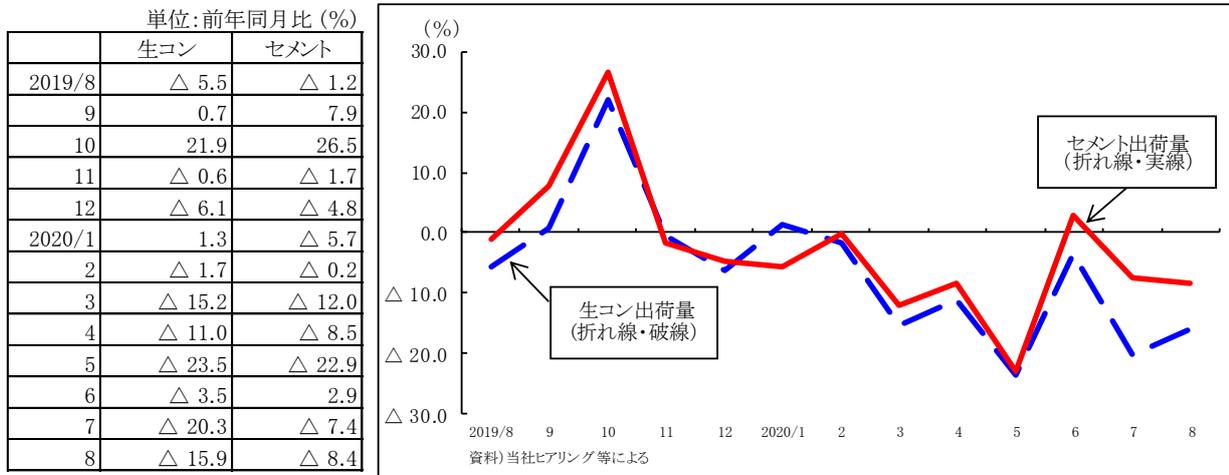
【参考】公共工事（年度累計）・・・公共工事請負金額は前年同期を上回る。



8月の公共工事請負金額は、前年同月比0.3%増の303億3,300万円となりました(2ヵ月ぶり増)。今年度累計値では、4.5%増となっています。

発注者別でみると、「市町村(同70.5%増)」や「沖縄県(同15.0%増)」、「独立行政法人等」は前年同月を上回りました。一方、「国(同42.3%減)」や「その他の公共的団体(同58.5%減)」は前年同月を下回りました。

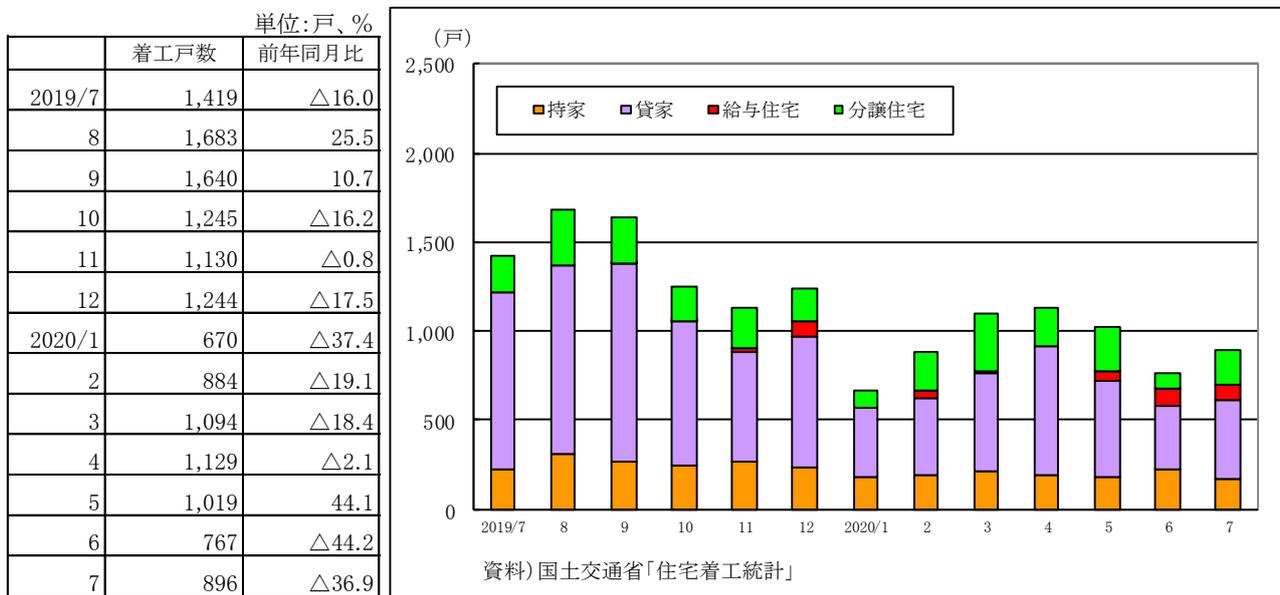
②建設資材・・・生コン、セメントはともに前年同月を下回る。



(注1) セメント出荷量は、速報値につき、確報にて修正される場合がある

建設資材関連では、生コンの出荷量は15.9%減と7ヵ月連続で前年同月を下回りました。内訳をみると、公共工事向けでは、中南部地区における空港関連や学校関連等への出荷が減少したことなどから前年同月より5.8%下回り、民間工事向けは、中南部地区における住宅関連や医療関連等への出荷が減少したことなどから前年同月より20.4%下回りました。セメント出荷量は8.4%減と2ヵ月連続で前年同月を下回りました。

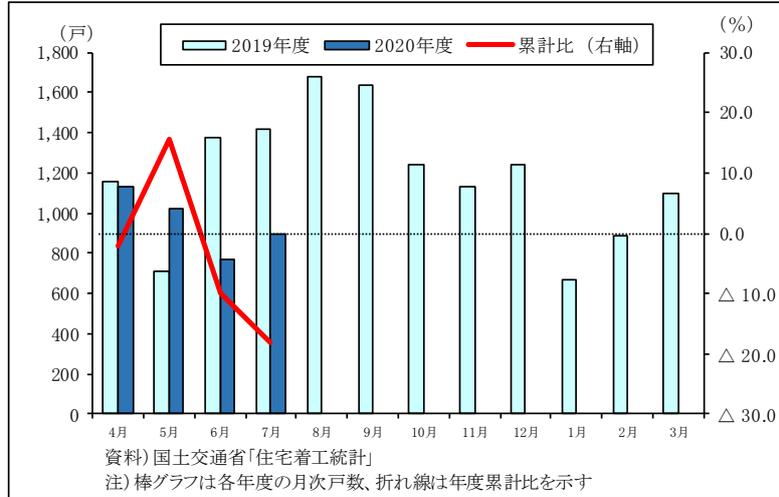
③【参考】住宅投資(7月)・・・着工戸数は前年同月を下回る。



7月の新設住宅着工戸数は、全体で前年同月比36.9%減の896戸となり、2ヵ月連続で前年同月を下回りました。利用別戸数をみると、ウェイトの高い「貸家(同54.5%減)」のほか、「持家(同27.6%減)」や「分譲住宅(同1.0%減)」は前年同月を下回りました。一方、「給与住宅」は前年同月を上回りました。

【参考】住宅投資（年度累計）・・・着工戸数は前年同期を下回る。

	2019年度	2020年度	累計比 (右軸)
			単位:戸、%
4月	1,153	1,129	△2.1
5月	707	1,019	15.5
6月	1,374	767	△9.9
7月	1,419	896	△18.1
8月	1,683		
9月	1,640		
10月	1,245		
11月	1,130		
12月	1,244		
1月	670		
2月	884		
3月	1,094		

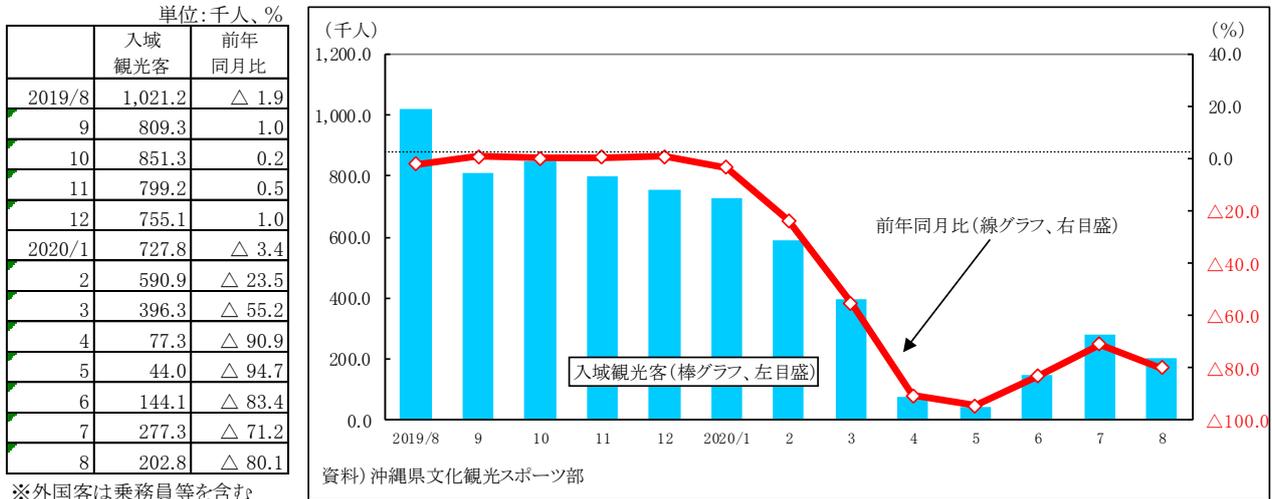


今年度累計値では、18.1%減となっています。



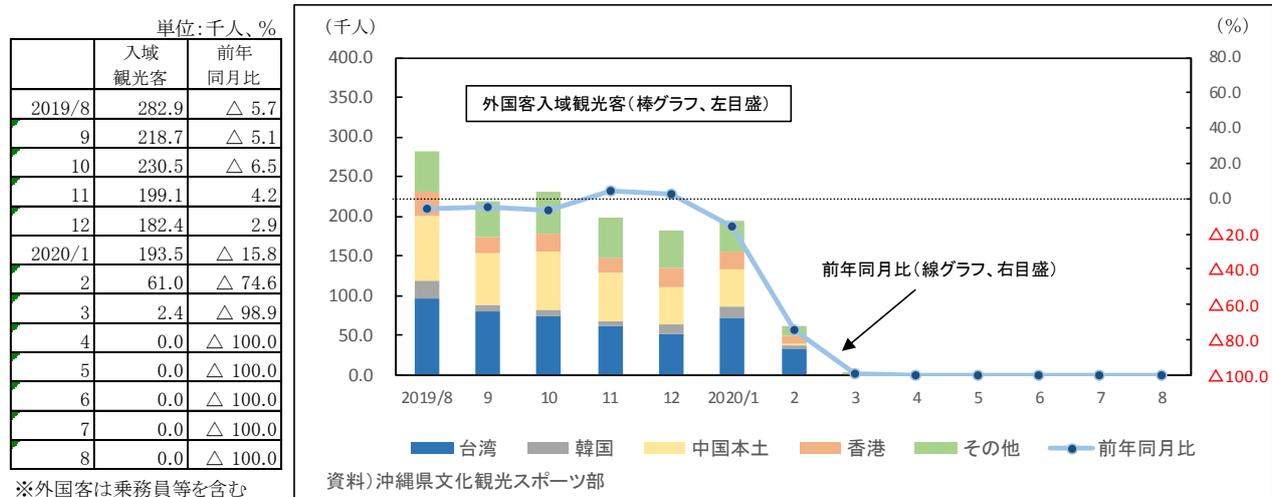
■観光関連： (悪い)

①入域観光客数 (国内客・外国客の合計)・・・8ヵ月連続で前年同月を下回る。



※外国客は乗務員等を含む

外国客 入域観光客数・・・8ヵ月連続で前年同月を下回る。



※外国客は乗務員等を含む

8月の入域観光客数は、818,400人少ない202,800人(前年同月比80.1%減)となり、8ヵ月連続で前年同月を下回りました。

内訳をみると、「国内客(同72.5%減)」は、202,800人と7ヵ月連続で前年同月を下回りました。

宮古・石垣路線で回復基調を維持したものの、7月末に「沖縄県緊急事態宣言」が発出され、お盆期間を含めて県外からの慎重な渡航が呼びかけられたこと、また、航空路線の運休・減便が継続されたことなどから、前年同月を大きく下回りました。

他方、「外国客(同100.0%減)」は、0人となり8ヵ月連続で前年同月を下回りました。新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、引き続き台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域を対象とした日本への入国制限措置がとれたことなどから、皆減となりました。

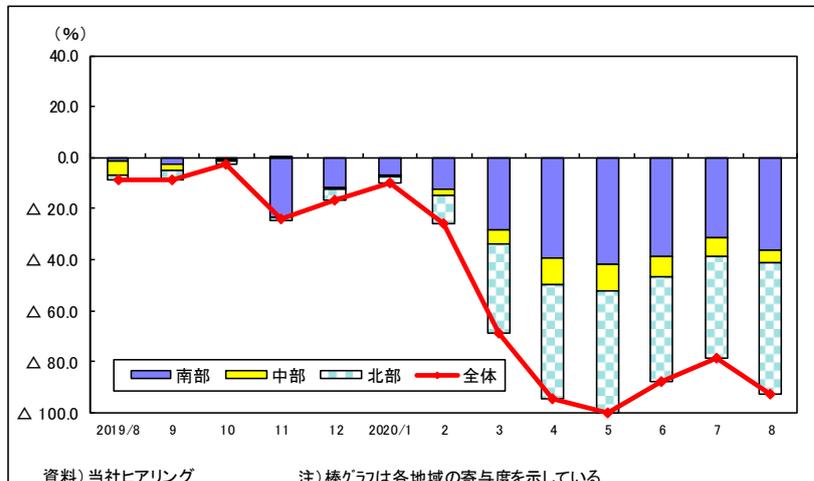
「台湾(同100.0%減)」「韓国(同100.0%減)」「中国本土(同100.0%減)」「香港(同100.0%減)」

※乗務員等を除く2020年8月実績＝全体202,800人(同80.1%減)、外国客0人(同100.0%減)、国内客は変わらない。

② 観光施設入場者数・・・13ヵ月連続で前年同月を下回る。

単位: %

	入場者数(前年同月比)			
	全体	南部	中部	北部
2019/8	△ 4.2	△ 4.1	△ 11.2	△ 3.0
9	△ 8.7	△ 6.3	△ 25.2	△ 7.1
10	△ 2.7	△ 1.5	△ 9.4	△ 2.4
11	△ 24.2	△ 51.7	3.8	△ 3.3
12	△ 16.7	△ 27.7	△ 6.8	△ 8.8
2020/1	△ 10.1	△ 16.4	△ 6.7	△ 5.3
2	△ 25.7	△ 31.6	△ 23.7	△ 21.3
3	△ 68.5	△ 68.8	△ 52.9	△ 71.8
4	△ 94.7	△ 95.6	△ 94.7	△ 93.9
5	△ 99.9	△ 100.0	△ 99.6	△ 99.9
6	△ 87.7	△ 92.4	△ 92.8	△ 82.9
7	△ 78.5	△ 83.9	△ 83.4	△ 74.0
8	△ 92.6	△ 92.3	△ 92.6	△ 92.8



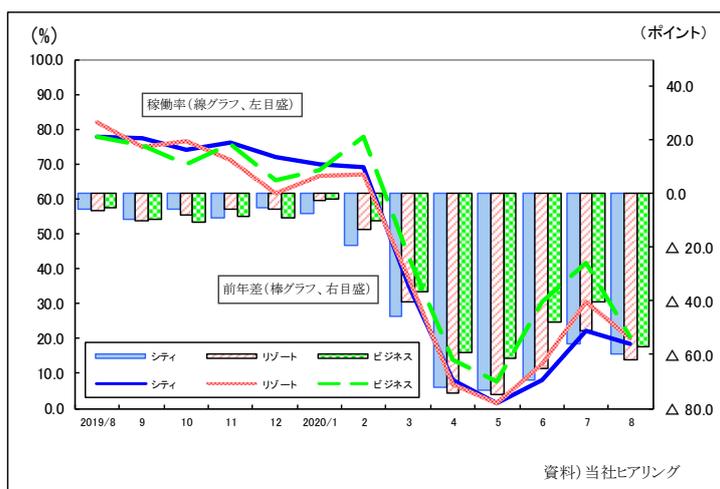
※調査対象施設数＝南部6、中部5、北部4施設
 ※2019年3月より、北部の対象施設数が変更(5⇒4)となったことから、2018年3月以降の数値を遡って改定した。
 ※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。
 ※新型コロナウイルス感染症の影響等をふまえ集計している。

観光施設入場者数は、全体で前年同月より92.6%減少(13ヵ月連続)しました。地域別にみると、南部にある観光施設は同92.3%減と13ヵ月連続、中部は同92.6%減と9ヵ月連続、北部は同92.8%減と13ヵ月連続で前年同月を下回りました。

③ ホテル稼働率・・・シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を下回る。

単位: %、ポイント

	稼働率			前年同月差		
	シティ	リゾート	ビジネス	シティ	リゾート	ビジネス
2019/8	77.8	81.9	77.6	△ 5.6	△ 6.1	△ 5.4
9	77.5	75.0	75.3	△ 9.4	△ 10.4	△ 9.6
10	74.1	76.4	70.0	△ 5.8	△ 8.0	△ 10.5
11	76.3	71.2	75.6	△ 9.1	△ 5.6	△ 8.7
12	72.1	61.8	65.4	△ 5.2	△ 5.9	△ 8.8
2020/1	70.1	66.8	68.1	△ 7.6	△ 2.4	△ 1.9
2	69.1	67.1	77.6	△ 19.1	△ 13.2	△ 10.4
3	34.9	37.3	43.2	△ 46.0	△ 40.1	△ 36.7
4	8.0	6.8	13.9	△ 72.2	△ 74.6	△ 59.5
5	1.3	1.4	7.6	△ 73.1	△ 74.8	△ 61.2
6	8.2	12.8	30.4	△ 69.6	△ 64.9	△ 48.1
7	22.4	30.5	41.7	△ 55.8	△ 51.4	△ 40.1
8	18.5	20.1	20.7	△ 59.6	△ 61.8	△ 56.9



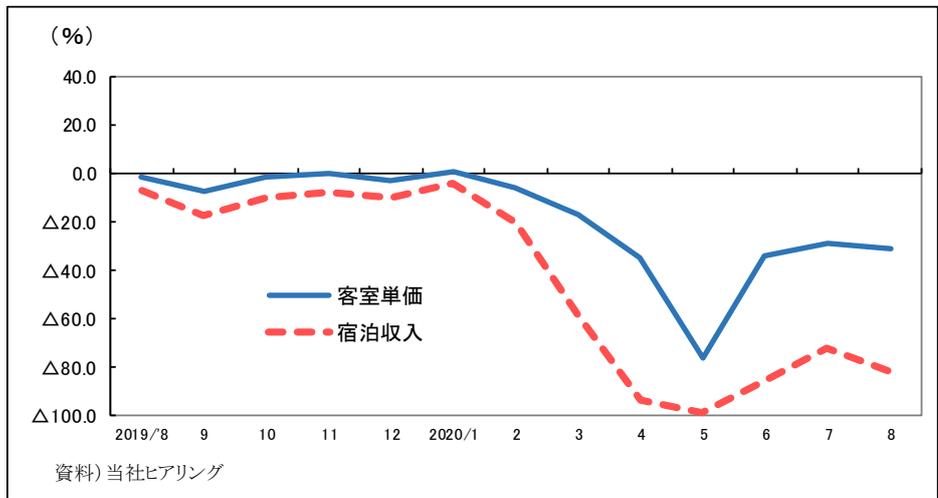
注) シティ8ホテル、リゾート18ホテル、ビジネス4ホテル
 注) 2019年11月より、ビジネスホテル対象施設数に変更(6⇒4)となったことから、2018年11月以降の数値を遡って改定した。
 ※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。
 ※新型コロナウイルス感染症の影響等をふまえ集計している。

県内ホテル稼働率は、シティホテルが18.5%と59.6ポイント減少(14ヵ月連続)、リゾートホテルが20.1%と61.8ポイント減少(15ヵ月連続)、ビジネスホテルが20.7%と56.9ポイント減少(13ヵ月連続)しました。

④ ホテル客室単価・宿泊収入・・・客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入も下回る。

単位:%

	客室単価	宿泊収入
2019/8	△1.4	△7.0
9	△7.4	△17.5
10	△1.2	△10.2
11	△0.1	△7.8
12	△3.3	△9.7
2020/1	0.7	△3.9
2	△5.8	△20.1
3	△17.2	△58.6
4	△34.9	△93.6
5	△76.2	△98.9
6	△34.3	△85.5
7	△28.8	△72.1
8	△31.3	△82.1



※対象施設数: 26施設(シティ8、リゾート18)、ビジネスは除く

※客室単価は26施設の平均値、宿泊収入は各施設の推計値の総額(稼働率及び客室単価より当社推計)

※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

※新型コロナウイルス感染症の影響等をふまえ集計している。

ホテル客室単価(シティ&リゾート)は前年同月比 31.3%減と前年同月を下回りました。**宿泊収入**も同82.1%減と前年同月を下回りました。

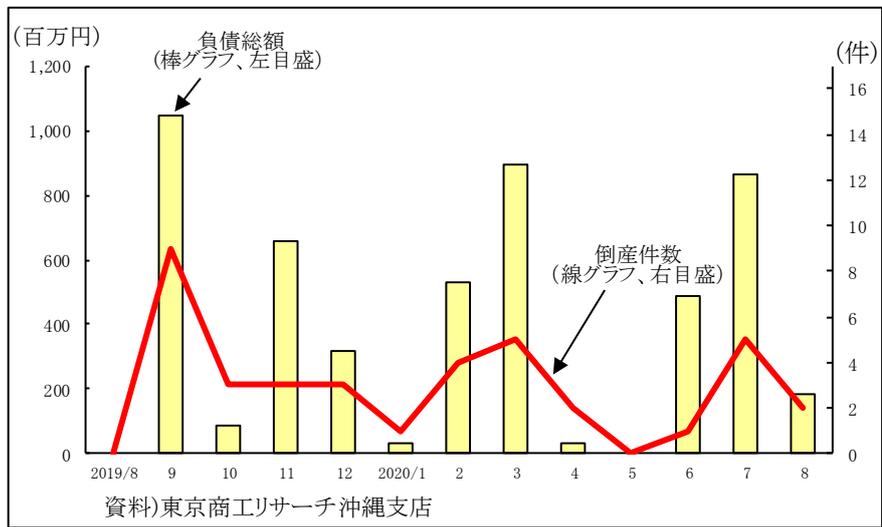


■企業倒産： (やや良い)

企業倒産・・・件数、負債総額はともに前年同月を上回る。

単位:百万円、件

	負債総額	倒産件数
2019/8	0	0
9	1,045	9
10	86	3
11	660	3
12	318	3
2020/1	30	1
2	530	4
3	897	5
4	30	2
5	0	0
6	490	1
7	862	5
8	182	2



8月の企業倒産件数は、2件(うち大口倒産1件)となり、前年同月を上回りました。

負債総額は1億8,200万円となり、前年同月を上回りました。

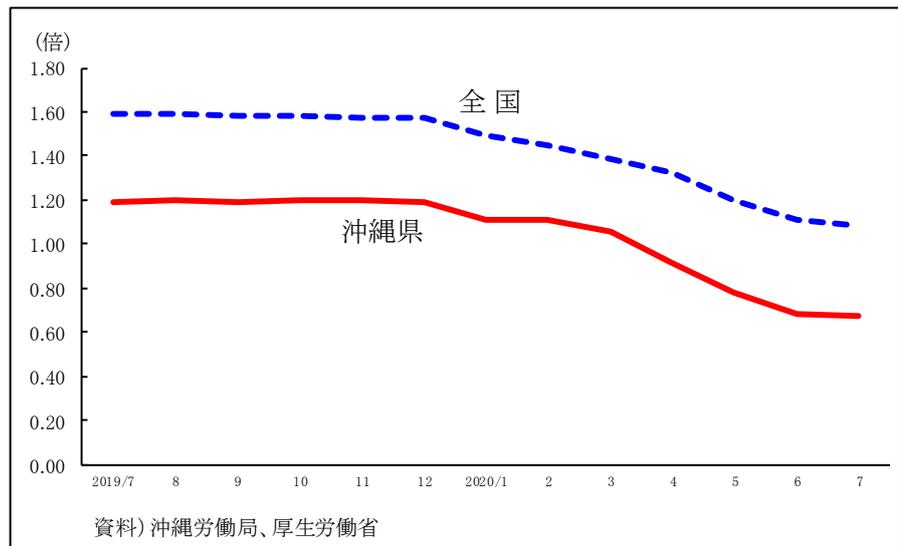


■雇用関連： (やや悪い)

①【参考】有効求人倍率(7月)・・・沖縄、全国はともに前月より低下。

単位:倍

	沖縄県	全国
2019/7	1.19	1.59
8	1.20	1.59
9	1.19	1.58
10	1.20	1.58
11	1.20	1.57
12	1.19	1.57
2020/1	1.11	1.49
2	1.11	1.45
3	1.06	1.39
4	0.91	1.32
5	0.78	1.20
6	0.68	1.11
7	0.67	1.08



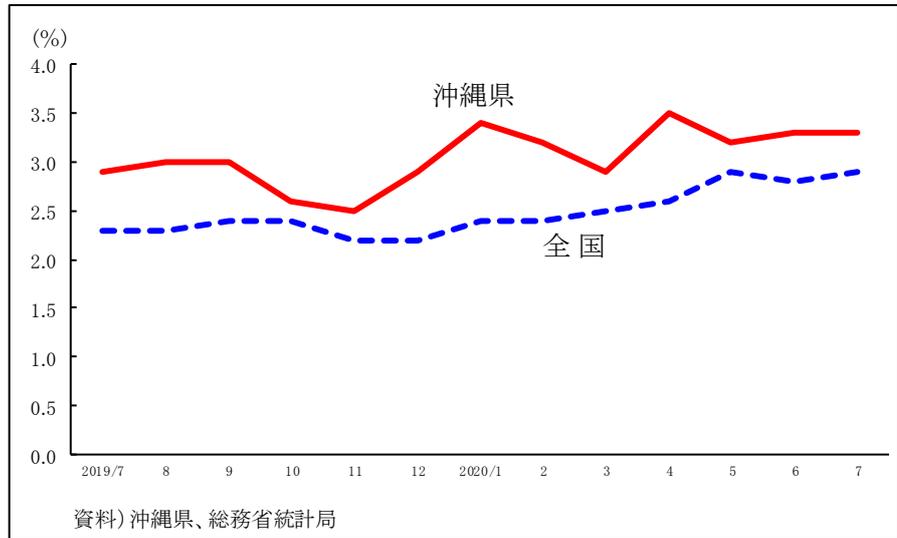
注) 季節調整済

7月の雇用状況は、月間有効求人数(季節調整値)が前月比3.7%増の19,433人に対して、月間有効求職者数(同上)は前月比5.5%増の29,197人となり、有効求人倍率(季節調整値)は0.67倍と、前月より0.01ポイント低下しました。

②【参考】完全失業率（7月）・・・沖縄は前月と同水準、全国は上昇。

単位:%

	沖縄県	全国
2019/7	2.9	2.3
8	3.0	2.3
9	3.0	2.4
10	2.6	2.4
11	2.5	2.2
12	2.9	2.2
2020/1	3.4	2.4
2	3.2	2.4
3	2.9	2.5
4	3.5	2.6
5	3.2	2.9
6	3.3	2.8
7	3.3	2.9



注) 季節調整済

7月の完全失業率(季節調整値)は、3.3%となり前月と同水準となりました。